

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は109～110円台を中心に堅調な推移か

[5月31日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月24日～5月28日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.95	109.96(28)	108.56(25)	109.89	+0.93
ユーロ・ドル	1.2179	1.2266(25)	1.2172(28)	1.2175	-0.0007

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,149.41	+831.58	日本10年債利回り	0.080	-0.003
ダウ平均株価	34,464.64	+256.80	米10年債利回り	1.606	-0.015

=====

<来週の主要経済統計等>

- 31日 日本4月鉱工業生産指数速報値、日本4月小売業販売額
中国5月製造業購買担当景気指数
独5月消費者物価指数
カナダ4月鉱工業製品価格、カナダ第1四半期経常収支
- 1日 豪第1四半期経常収支
豪4月住宅建設許可件数
中国5月財新製造業購買担当景気指数
豪中銀(RBA)政策金利
スイス4月小売売上高
スイス第1四半期国内総生産(GDP)
独5月雇用統計、独5月製造業PMI確報値
ユーロ圏5月製造業PMI確報値
英5月製造業PMI確報値
ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月雇用統計
米5月製造業PMI確報値
米5月ISM製造業景況指数、米4月建設支出
- 2日 豪第1四半期国内総生産(GDP)
ユーロ圏4月生産者物価指数
- 3日 豪4月貿易収支、豪4月小売売上高
独5月非製造業PMI確報値
ユーロ圏5月非製造業PMI確報値
英5月非製造業PMI確報値
米5月ADP雇用統計
米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数
米5月サービス業PMI確報値
米5月ISM非製造業景況指数
- 4日 日本4月勤労者世帯家計調査
ユーロ圏4月小売売上高
米5月雇用統計
カナダ5月雇用統計
カナダ5月Ivey購買部協会指数
米4月製造業受注、米4月耐久財受注確報値
主要7か国(G7)財務相会合

【前回のレビュー】米経済指標は物価指標を除くと予想から下振れしているケースが多く、米長期金利の上昇やドル買いにつながりにくくなっている。一時的なインフレ圧力

の高まりだけでは継続的なドル買いにつながりにくく、ドル円は109円を挟んでの振幅が継続するとした。

【米雇用統計などの経済指標に注目】

ビットコインなどの暗号資産の値動きが不安定なことで、その値動きに振り回されて、米国株などにも影響を与えるケースも散見される。ただ、ビットコインなど暗号資産と米国など各国の株価や通貨などの相関は高い状態が続いているわけではない。ビットコインの価格がある程度落ち着いてくれば、米国株や通貨、商品市場などへの影響も低下してくるとみられる。

12日の4月の米消費者物価指数や13日の米生産者物価指数の上振れを受けて、インフレ懸念から早期の量的緩和縮小（テーパリング）観測などが台頭したものの、このところの米長期金利は落ち着きを見せている。25日には1.55%前後まで低下した。その後は緩やかに上昇しており、27日には米新規失業保険申請件数の減少などを好感して、1.61%前後まで上昇している。

最近の米経済指標は予想から下振れするケースもみられるものの、市場の期待値が高すぎることによるところも大きく、結果そのものは景気の回復基調を示していると判断できる。こうした中、カプラン米ダラス連銀総裁やデーリー米サンフランシスコ連銀総裁などはテーパリング議論の開始に前向きな姿勢を示している。

量的緩和縮小の議論が活発化していくには、今後の米経済指標の動向などが注目される。5月31日の週は注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。米雇用統計など5月に予想から下振れした各種統計が上振れするかといった点が注目される。

1日の5月の米ISM製造業景況指数の予想は61.0（前回は60.7）、3日の5月の米ISM非製造業景況指数の予想は63.0（前回は62.7）、4日の5月の米雇用統計の非農業部門雇用者数は前月比66.3万人増（前回は26.6万人増）と予想から上振れが見込まれる。一方、3日発表の5月の米ADP雇用統計は前月比70.0万人増となり、前回の74.2万人増から下振れする見通しとなっている。

予想通りに上振れする米経済指標が多ければ、米長期金利の上昇につながり、ドル買いに動きに傾きやすくとみられる。ただ、過度な上振れは量的緩和縮小の前倒し議論につながり、米国株の圧迫要因になる可能性も高まる。その場合はリスク回避の円買いに傾きやすくなりそうだ。

米経済指標が予想に沿ったおおむね良好な結果となれば、米長期金利も落ち着いた動きになるとみられる。その場合は緩やかなドル買いにつながり、ドル円は109～110円台を中心に底堅い動きを続けることとなる。ドル円の目先の予想レンジは、108.50～111.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、31日に日本4月鉱工業生産指数速報値、日本4月小売業販売額、1日に米5月製造業PMI確報値、米5月ISM製造業景況指数、米4月建設支出、3日に米5月ADP雇用統計、米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数、米5月サービス業PMI確報値、米5月ISM非製造業景況指数、4日に日本4月勤労者世帯家計調査、米5月雇用統計、米4月製造業受注、米4月耐久財受注確報値などがある。

【ユーロドルは高値圏でのみ合いか】

ユーロ圏ではワクチン接種が拡大しており、景気回復期待も高まりつつある。そうした中、欧州中央銀行（ECB）の出口戦略への期待感も高まっている。ECBによる量的緩和縮小（テーパリング）観測が広がって、ユーロドルは25日には1.2266まで上昇するなど、堅調な推移を続けてきた。

ただ、26日にはECBのパネッタ専務理事が景気回復はまだ最初の段階であり、インフレ率も低く、6月10日のECB理事会で資産買い入れペースを削るべきではないとの認識を示した。これを受けて、ドイツの10年債利回りが低下するとともに、ユーロが売られてユーロドルは1.2200ドルを割り込んだ。

なお、これまでもECB当局者から早期の緩和縮小をけん制する発言は出ている。21日にはECBのラガルド総裁もパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の縮小に関して議論するのは時期尚早との認識を示していた。ユーロ圏での経済指標が上向きつつあり、景気が本格回復しないうちに緩和縮小議論が先走することをけん制している。25日には仏中銀のビルロード総裁もPEPPの購入ペースの調整を急いでいないと発言している。

ECB当局者による緩和縮小をけん制する発言はユーロドルの上値を抑える要因となる。もっともワクチン接種の拡大で各国では行動規制の緩和により、経済活動が活発化すると見込まれる。このためユーロドルは押したところでは下支えされるとみられ、高値圏でもみ合いが続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.2100～1.2300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、31日に中国5月製造業購買担当景気指数、独5月消費者物価指数、カナダ4月鉱工業製品価格、カナダ第1四半期経常収支、1日に豪第1四半期経常収支、豪4月住宅建設許可件数、中国5月財新製造業購買担当景気指数、豪中銀（RBA）政策金利、スイス4月小売売上高、スイス第1四半期国内総生産（GDP）、独5月雇用統計、独5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月製造業PMI確報値、英5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月雇用統計、2日に豪第1四半期国内総生産（GDP）、ユーロ圏4月生産者物価指数、3日に豪4月貿易収支、豪4月小売売上高、独5月非製造業PMI確報値、ユーロ圏5月非製造業PMI確報値、英5月非製造業PMI確報値、4日にユーロ圏4月小売売上高、カナダ5月雇用統計、カナダ5月IVEY購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。